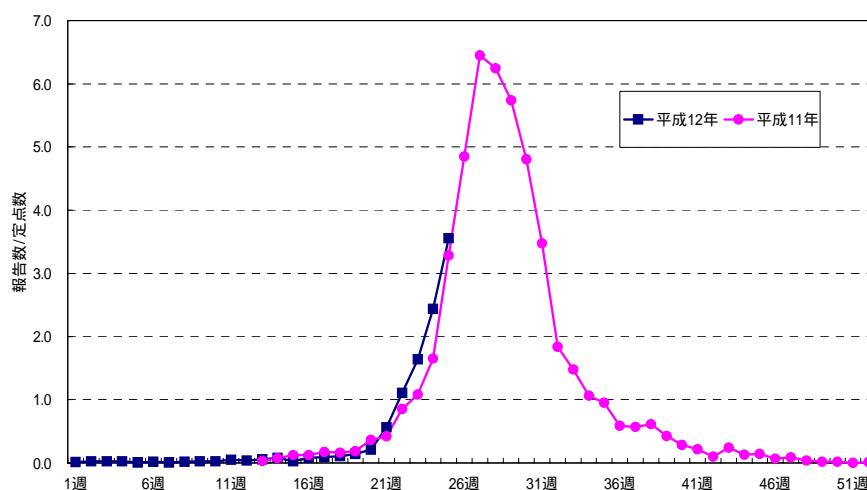


# 愛知県感染症情報

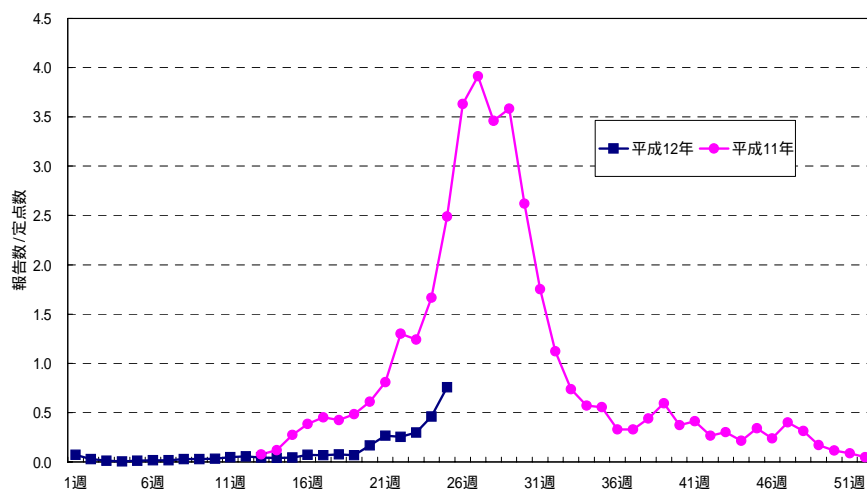
平成 12 年第 25 週（6 月第 3 週）

（コメント）

ヘルパンギーナ及び手足口病は増加傾向ですので注意してください。



ヘルパンギーナ(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)



手足口病(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 溶連菌感染症増加傾向（迅速試験で証明済み）

（一宮市 後藤小児科）

- ・ 感染性胃腸炎 5 2 名には下記のものを含みます。（病原性大腸菌 O-1 1 1 ヶ月女、O-128 7 歳女、サルモネラ O-9 4 歳女  
カンピロバクター 7 歳女）  
マイコプラズマ肺炎 3 名（2 歳男、3 歳男、9 歳男）

- ヘルパンギーナ急増 14名  
(尾西市 城後小児科)
- ・ ヘルペス口内炎3名(6歳男、1歳男と2歳男の兄弟例あり)  
溶連菌感染症が目立ちます。  
(一宮市 あさのこどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナ多し。  
ムンプス(流行性耳下腺炎)続発中  
帯状疱疹 1歳6ヶ月  
腸重積連続2例あり  
E.coli O-1、O-18の腸炎あり  
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナが流行しています。  
A群溶連菌感染症もまだ見られています。  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- 尾張東部地区
  - ・ 麻疹6歳男(ワクチン未接種)。  
ヘルパンギーナが増加しています。  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ 麻疹(7ヶ月乳児)1例(経過中コプリック斑\*は、はっきりせず)。  
水痘、突発性発疹継続。  
ヘルパンギーナ増加傾向。  
手足口病はまだ散発です。  
(尾張旭市 佐伯小児科医院)  
\*コプリック斑：麻疹患者の頬の粘膜にできる白色の斑点
  - ・ 無菌性髄膜炎が増えています。  
(尾張旭市 旭労災病院)
  - ・ ヘルパンギーナが流行してます。5歳のムンプスはワクチン接種して  
ましたが40の発熱が3日間あり重症でした。  
(春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ ロタウイルス感染症がまだみられます。ヘルパンギーナが流行しは  
じめています。  
(春日井市 片山こどもクリニック)
  - ・ ヘルパンギーナが多い様です。  
(小牧市 鈴木小児科)
  - ・ ヘルパンギーナが目立つ。  
(小牧市 小牧市民病院)

- ・ 麻疹 5 例中 1 例はワクチン接種例です。  
（小牧市 志水こどもクリニック）
- ・ 流行性耳下腺炎 11 歳男（予防接種済み）  
ヘルペス口内炎 2 名（1 歳 3 ヶ月男、2 歳男）  
病原性大腸菌 O-25 VT1・VT2(-) 1 歳男  
水痘 5 歳女（2 歳時予防接種済み）  
ヘルパンギーナ、手足口病が増加傾向  
（東海市 小児科ハヤカワ医院）
- 西三河地区
  - ・ マイコプラズマ肺炎 10 歳女  
病原大腸菌 O-25 10 ヶ月女  
（豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）
  - ・ マイコプラズマ肺炎 11 才男  
他にマイコプラズマ抗体上昇例目立つ。  
Herpes simplex 感染と思われるもの 3 例  
（岡崎市 医療法人深田小児科）
  - ・ ヘルパンギーナが増加中  
（岡崎市 花田こどもクリニック）
  - ・ カンピロバクター 11 才女  
（岡崎市 にいのみ小児科）
  - ・ 病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 5 才男  
（幸田町 とみた小児科）
  - ・ 引き続き A 群溶連菌感染症目立ちます。  
帯状疱疹 2 名（16 歳男、5 歳男）  
（碧南市 永井小児クリニック）
  - ・ ヘルパンギーナが目立ってきました。  
（西尾市 山岸クリニック）
- 東三河地区
  - ・ 病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 2 歳女  
（豊橋市 野村小児科）
  - ・ 百日咳 1 歳女（DPT（三種混合）未接種）  
ヘルパンギーナが流行しています。  
（豊橋市 大谷小児科）
  - ・ 水痘ワクチン接種児にて水痘の発生あり（1 名）。  
（田原町 かわせ小児科）

( 1 ~ 3 類感染症の発生状況 )

腸チフス患者 1 名。

- ・ 一宮保健所から報告の 26 歳女 6/14 発病、6/16 初診、6/21 診定。  
菌型は、O-9。

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名

- ・ 豊橋市保健所から報告の 11 ヶ月女 6/1 発病、6/8 初診、6/19 診定。菌型は、O-26 VT1(+)

腸管出血性大腸菌保有者 1 名

- ・ 半田保健所から報告の 1 歳女 6/21 初診、6/21 診定。菌型は、  
O-26 VT1(+)

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

発生はありません

第 23 週 ( 6 月 5 日 ~ 6 月 11 日 ) の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、3 歳から 7 歳の小児が全体の 73% を占め、ピークは 4 ~ 6 歳にある。咽頭結膜熱、感染性胃腸炎は例年の同時期に比べ定点当たり報告数がやや多くなっている。手足口病は熊本県をはじめ、九州地方で定点当たり報告数が多くなっており、熊本県で 20.4 、佐賀県で 13.7 、福岡県と鹿児島県で 6.3 となっている。そのほか、群馬県、奈良県、山形県、和歌山県などでも定点当たり報告数が多くなっている。麻疹は依然大阪府、千葉県などで流行が見られる。流行性角結膜炎は茨城県で定点当たり報告数が 4.5 と多い。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )

2000年5月5日号(75巻18号)

コレラ：ソマリア。1月1日～4月21日の間に2,232例(死亡例230)。国際協力チームが活動している地域では死亡数は少なく予防活動も適切であるが、国全体としては治安不良とアクセスの困難さ、旱魃などで状況は複雑かつ困難である。

野兔病：コソボ地区(前回報告)の現況。プリスチナ(注：コソボ中心都市)公衆衛生研究所によれば699例発生。実験室内確定診断例が56例。発生地域が多数の自治体に及んでいるので問題が山積している。全国サ-ベイランス網が強化され、国際チームの協力による野兔病菌実験室内診断法が確立。国立公衆衛生研究所と国際チームの共同作業で疫学調査(症例の発見と検査材料収集、対照群をおいた調査)が進行中。

メジナ虫(ギネア虫。注：寄生虫症。成虫はヒトの皮下に寄生。雌虫が下腿や踝部など水につかる部分の皮膚を破って尾部先端から産卵、幼虫の中間宿主は淡水中のミジンコ。汚染された生水を飲んで感染。症状は皮膚炎、筋炎、骨膜炎、運動障害など)。

常存地であったインド、中近東からは消失した。現在アフリカ地区に常在。最大の常在国はス-ダン(99年届出数66,097例、前年比38%増)であり次いでナイジェリア(13,237例)、3位がガ-ナ(9,027例)、以下ベニン、象牙海岸、マリ、ウガンダなどでWHOは2000年4月、ブルキナファソで撲滅のための会議開催。(本報告は常在各国の国別の状況がまとめてある)。

インフルエンザ：南半球各国でH1N1(バイエルン型)発生。

4月28日-5月4日届出。コレラ：マヨット、オ-ストラリア(輸入例)。

2000年5月12日号(75巻19号)

レジオネラ症：オ-ストラリア。66例(死亡2例)。血清型1型。1例を除いて4月11日以降にメルボルン水族館入館者。同水族館のク-リングタワ-の水から同型のレジオネラ菌発見。当局はただちに消毒処置を行なった。

シャ-ガス病：ブラジル(注：中南米に分布するトリパノゾ-マ原虫症。サシガメが媒介。発熱・発疹、肝脾腫、心筋炎、巨大結腸など)。媒介昆虫対策進捗の結果、7歳以下小児の陽性率は80年の5%が2000年には0.28%に低下した。

薬剤耐性結核菌：ヨ-ロッパ10カ国の共同研究。97年からINH、RFP、EB、SM耐性の状況を肺疾患患者を対象に国別、年齢別に継続調査開始。本報は97年のまとめである。治療開始時に分離された結核菌のうち多剤耐性(MDR)を示した%はアイスランドが0%、スエ-デンとスイスが1.1%であったのに対しエストニアが13%、ル-マニアが3.4%で国による差が大きい。外国人移住者にMDR例が多い(アジア地区出身者9.2%、アフリカ地区出身者9.6%)。

初回治療者よりも治療再開者にMDRが多い。ル-マニアとエストニアを除いてINH耐性菌、RFP耐性菌は若年者(<35歳)に少ない。今後の継続調査の結果が待たれる。

インフルエンザ：オ-ストラリア、ラトビア、タイで散発。A(H3N2)。

5月5日-11日届出。コレラ：日本。

終日降ったり止んだりのお天気。仕事を済ませて外に出ると病院の中庭に梔子（くちなし）の甘い匂いと白い花弁が、梅雨の花は紫陽花や花菖蒲だけではないと言っています。いつも貴重な情報を有難うございます。6月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：ヘルパンギ-ナが各地区で発生、同時に無菌性髄膜炎の入院例が目立つとの報告をいただくようになりました。まだ手足口病の発生は少ないようです（国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、大同病院水野先生）。溶連菌感染症も各地区で目立っていますが、特に重症例や合併症の多発はないようです（国立・松下先生、第二日赤岩佐先生、三菱・岩間先生、千種区今枝先生、城北・渡辺先生、労災病院伊藤先生、大同・水野先生）。ムンプスと水痘の散発も見られますが、重症例の報告はありません。高熱や咽頭痛の感冒、扁桃腺炎・中耳炎の入院例（国立・松下先生、城北・渡辺先生、名東区高橋先生、三菱・岩間先生、中京病院柴田先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・伊藤先生、大同・水野先生）、PC耐性肺炎球菌の扁桃炎や髄膜炎（城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生）、マイコプラズマ肺炎（三菱・岩間先生、大同・水野先生）の報告もいただいています。ウイルス性の胃腸炎の散発（千種区今枝先生、名東区高橋先生）と細菌性腸炎（三菱・岩間先生；O1、O15、O181、大同・水野先生）が発生中で、麻疹（国立・松下先生；西区の中学で流行中）、川崎病の報告もいただきました（大同・水野先生、中京・柴田先生；-G1の反応が悪い例が目立つ）。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌感染症、水痘、ムンプスが散発中で3歳の帯状疱疹あり、津島市民病院長田先生からは水痘、溶連菌感染症、急性糸球体腎炎、川崎病が目立つ、江南市昭和病院丸地先生からは溶連菌感染症（急性糸球体腎炎あり）、咽頭結膜熱、マイコプラズマらしい肺炎、麻疹3例）、岩倉市永吉先生からは溶連菌感染症続発中でムンプス増加、ヘルパンギ-ナ少し増加、常滑市民病院肥田先生からは幼児と学童の感冒性胃腸炎の小流行とカンピロバクタ-腸炎散発、7歳男児のO-157入院例（VT2陽性、UHSなく家族内感染もない）の報告をいただきました。

呼吸発作のために呼吸管理を要した例あり、麻疹1例ありとのお手紙でした。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはヘルパンギ-ナを含め「夏かぜ」が増加、ウイルス性髄膜炎2例、喘息患者目立つ、安城更生病院小川先生からは水痘とムンプスの散発が続きA群溶連菌感染症がやや多くマイコプラズマ肺炎やや多く喘息の入院が増加、知立市近藤先生からはカンピロバクタ-腸炎1例、病原性大腸菌2例（O1、O18）、水痘とムンプスが散発中で伝染性紅斑点と百日咳各1例、溶連菌感染症が散発中、刈谷市田和先生からは溶連菌感染症、水痘、ムンプス、感染性胃腸炎が散発中、碧南市永井先生からは溶連菌感染症と水痘が相変わらずでムンプスが散発中、豊橋市宮澤先生からは突発疹、ヘルパンギ-ナの高熱患児や水痘が目立つとのお手紙でした。有難うございました。